

山崎 規久夫さん
(伊勢エビ漁師)



待ちかねちゅう人がおる

志和の名物といえば伊勢エビ。漁は10月から12月にかけて最盛期を迎える。漁港に並ぶブルーシートの小間で、オレンジ色の建網が揺れている。「時間があつたら修繕せないかん。これがあしんどい仕事はない」。山崎規久夫さんが網を手に苦笑いする。

建網漁は、水深15~30メートルの海底にカーテン状の網を張り、夜行性の伊勢エビが引っかかるのを待ち、早朝に水揚げする。一回の漁で網のあちこちが破れてしまうため、その都度、新しい網糸で補修しなければならない。長さ数百メートルに及ぶ建網を、延々と繕う作業が続く。「大変やけど、エビがようけかかったら、そらうれしいわね」。

志和で生まれ育った山崎さん。父は当時あった大敷組合の漁師だった。子どもの頃は、山の上に掲げられた青い旗が集落に大漁を知らせた。「浜にブリがどっさり揚がりよった」と懐かしむ。

かつてはブリや伊勢エビのほか、モジャコ(ブリの稚魚)を育てて出荷する漁師もいたという。山崎さんが漁港に目

をやる。「この両側に船がずらっと並んじよった。いろんな漁師がおって、仕事がありよったきね」。30代までは窪川などで働き、41歳で本格的に志和の漁師になった。最初は海士として素潜りでサザエを探り、生計を立てた。

海の異変は「20年前ごろやろうか」。海水温が上がり、生い茂っていた海藻がほとんど姿を消した。サザエもいなくなり、山崎さんは伊勢エビ漁へ転じた。

始めた頃は20人ほどいた伊勢エビ漁師も今は6人に。一大イベントの「志和ふるさとまつり」では、漁師たちが網を出し合って伊勢エビを構える。「毎年待ちかねちゅう人がおる。そういう人のためにも漁は続けていきたい」。漁期外の春から夏にかけては、仲間と「志和藻場を守る会」として活動。藻を食べるムラサキウニを駆除し、間伐材で稚エビの成育場所を整えるなどの取り組みを続けている。

時代とともに海は変わった。それでも、古里を思う志和の漁師たちの姿は、変わらずここにある。



町にはこんな waza も タイピングが得意！久原 陸さん十和小学校4年

先生の勧めで2年生からタイピングの練習を始め、めきめきと上達。高知県教育委員会が開催する「高知家タイピング選手権」(小学校中学年の部)では10位に入賞した。「スコアが上がっていくのがうれしい」。さらに上位を目指してキーボードに向かう。

choi
waza!!

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。
choi waza!!は随時募集中!▶



四万十町営塾「じゅうく。」



十周年
じゅうく開塾、
地域の皆さんに応援いただ
き、十一月で十周年を迎えま
した。ありがたいことに「卒業し
てもじゅうくや四万十町で何
かしたい」と、関わりを続けて
くれる卒業生の姿もみられて
います。
「ここ」で学べてよかったです」と心
から思える場所をこれからもつ
くつていきます。



町営塾「じゅうく。」
【開室】平日16:30-20:30

塾に関するお問い合わせは、公式LINEまたはお電話にてお気軽にご連絡ください。

町営塾「じゅうく。」
050-5482-3339

人材育成推進センター
0880-22-3163

四万十町営塾「じゅうく。」
LINEアカウント

四万十町営塾「じゅうく。」
Instagramアカウント

教室の中、地域の中での挑戦
の先では、さらに外へも目を向
けます。昨年に引き続き、探究
学習の全国大会「全国高校生マ
イプロジェクトアワード」への挑
戦を今年もサポートします。
十一年目の「じゅうく。」も引
き続きよろしくお願ひいたし
ます。

「じゅうく。」は生徒がまだ見
ぬ自分に出会うきっかけをつく
りたいと考えています。勉強も、
それ以外のことでも、まずはス
タッフや友だちと一緒にやって
みる。

このコーナーでは、県立窪川高校、県立四万十高校、町営塾「じゅうく。」での生徒たちの活動を月替わりで紹介します。